

痛みと漢方治療

日本赤十字社和歌山医療センター 漢方科部

山田 伸 *Shin Yamada*

はじめに

痛みは漢方科の外来で最もよくみられる症候の一つである。痛みが生じて、まず最初に訪れるのは整形外科など西洋医学的治療を行う施設であり、当科にはいくつかの施設を巡って十分な効果が得られなかった場合にやってくる、いわゆる難治性疼痛の患者が多い。西洋医学的治療は急性痛に奏功することが多いが、慢性痛には難渋することがある。また、原因不明の痛みに対しては非ステロイド性抗炎症薬などによる対症療法しかできないことが多い。近年、慢性疼痛に対してプレガバリンや、フェンタニル、トラマドールなどのオピオイドが使用可能になり、治療薬の幅が広がったが、副作用が多く服薬継続を断念することも多い。一方、漢方医学的治療は慢性疼痛に意外な効果を見ることがある。「困ったときの漢方薬頼み」というわけである。漢方治療は、痛みそのものを止めるのではなく、全身のバランスを整えることによって痛みを緩和する、「和痛」を目標とする。「この痛みにはこの薬」というような薬もあることにはあるが少なく、通常は全身状態から処方を選択する。例えば、冷えると悪化するによる痛みには体を温める附子を含むような処方、体に熱感がある場合には体を冷やす効果がある石膏を含む処方が用いられる。

(平成24年10月25日受付)(平成24年11月1日受理)
連絡先：(〒640-8558)

和歌山市小松原通四丁目20番地
日本赤十字社和歌山医療センター
漢方科部

山田 伸

漢方治療の基本方針

漢方治療は東洋医学的診察により生体情報を収集し、八綱弁証(陰陽・虚実・表裏・寒熱)、六病位(三陰三陽)、気血水など東洋医学的概念を用いて検証し「証」を決定する。証とは患者が現時点で現している症状から得られる診断であり、治療の指示である。つまり証が決まれば処方決定する。

漢方医学では、「通じされば則ち痛み、通ずれば則ち痛まず」というのが痛みの基本的な考えである。東洋医学的概念の中でも痛みの治療においては、気血水理論と冷えの概念が治療上、重要であるので、それらを中心に診断・治療について概説する。

気血水理論

人体のなかには「気・血・水」の3つの流れが存在すると考えられている。それぞれの流れが滞りなく循環していれば健康で、不足したり滞ったりすると疾病に陥るという理論である。

気の異常と治療

気とは生命活動の源泉・エネルギーであり、現代の言葉に当てはめると気力・活力・エネルギーといえるようなものである。目に見えず、血液や間質液でない身体中を巡っている力の概念である。気の異常には気虚、気うつ、気逆などがある。

気虚とは気の量の不足による病態で、精神活動の低下、全身倦怠感、内臓下垂、性欲低下な

ど生命体としての活力の低下を引き起こす。自覚症状には全身倦怠感、気力がない、疲れやすい、日中・食後の眠気、食欲不振、風邪を引きやすい、物事に驚きやすいなどがある。他覚的所見として眼光・音声に力がない、舌が淡白紅・腫大、脈が弱い、腹力が軟弱、内臓下垂、小腹不仁(下腹部の筋緊張低下)、下痢傾向などがある。治療は消化管の機能を高め、気の産生・供給を計ったり、新陳代謝を高める方剤を使用する。人参や黄耆を含む処方である補中益気湯、六君子湯、人参湯などが代表的処方である。

気うつとは気の循環に停滞をきたした病態で、抑うつ傾向、訴えが多い、症状が時間的に消したり、部位が移動したりするなどの特徴がある。自覚症状として気持ちの落ち込み、頭重・頭帽感、咽のつかえ感(梅核気)、胸の詰まった感じ、腹部膨満感、排ガスが多い、げっぷ、残尿感などがある。時間により症状が動いたり、朝起きにくく調子が出ないといった症状も気うつ一の症候である。半夏厚朴湯、香蘇散、柴胡加竜骨牡蠣湯などが代表的処方である。

気逆とは気の循環の変調で、身体中心部から末梢へ、あるいは上半身から下半身へ巡るべき気が逆流するために起こるとされる。症状には冷えのぼせ、顔面紅潮、動悸発作、発作性頭痛、嘔吐・怒責を伴う咳、腹痛発作など突発的な症状や、物事に驚きやすい、焦燥感に襲われる、四肢の冷え、手掌・足せきの発汗などがある。苓桂朮甘湯、桂枝加龍骨牡蠣湯、加味逍遙散などが代表的処方である。

気の異常は舌痛症や非定型顔面痛、肩凝りや全身の痛みなど西洋医学では原因不明とされる症状の原因になったり、後で述べる血や水の異常に伴うことが多く、それらの異常の悪化の原因になったりする。

血の異常と治療

血とは身体中を巡る目に見えるもので赤い液体である。現在医学の血液に相当するが、概念として完全に一致するものではない。血の異常として血虚と瘀血がある。

血虚とは血の量の不足を生じた病態である。血の生成不足(栄養不足)、血の消耗(消耗性疾患、手術、悪性腫瘍などによる)や出血による不足などにより生じる。症状としては不眠、動悸、顔色不良、やせ、めまい感、目のかすみ、爪が脆い、皮膚が荒れる、脱毛、こむら返り、手足のしびれ、集中力低下、過小月経などがみられる。治療方剤として四物湯を含む方剤が基本である。血を補う場合は四物湯、芍婦膠艾湯、当帰飲子などが、血を補い、巡らす場合は温清飲、荊芥連翹湯、疎経活血湯、潤腸湯などが、気血を補う場合は十全大補湯、人参養栄湯、大防風湯、帰脾湯などが代表的処方である。

瘀血とは血の流通に障害をきたした病態である。流速の低下、うっ滞、流通の途絶などによる病態や血管外に漏出した血(内出血)も瘀血の病態として認識される。自覚症状としては不眠・嗜眠、精神不穏、顔面のホットフラッシュ、筋痛、腰痛などがみられる。他覚所見としては顔面の色素沈着、眼瞼部のくま、粘膜の暗赤紫化、毛細血管拡張、臍傍圧痛、月経異常、痔疾、皮下出血、打撲の腫れなどがみられる。治療方剤は虚実(おおよそ体力のあるなしで分類)で分類するのが分かりやすく、虚証に対しては当帰芍薬散、虚実間証では桂枝茯苓丸、加味逍遙散、疎経活血湯、治打撲一方など、実証には桃核承気湯、大黃牡丹皮湯、通導散などが代表的処方である。

血の異常は脊椎疾患、婦人科疾患、皮膚科疾患、外傷、腫瘍性疾患など様々な疾患でみられる。疼痛性疾患では血の異常を来していることが多いので、その状態を把握することは治療上、最重要ポイントといえる。

水の異常と治療

水は生体の物質的側面を支える無色の液体であるとされる。この水が偏在した病態を水滯(水毒)という。気血の量とその循環が健全に保たれていれば滯ることはないが、外乱因子(風・寒・湿)や気血の異常などによって水の停滞・偏在を生じる。

水滯の自覚症状には手足や顔面のむくみ、浮腫、水溶性鼻汁、喀痰、口渴、悪心・嘔吐、尿量の異常、動悸、めまい、立ちくらみ、頭痛、天気左右される痛みやだるさなどがある。他覚所見としては舌に齒圧痕、心下振水音などがある。治療方剤の代表薬は五苓散で、その他、苓桂朮甘湯、苓姜朮甘湯、半夏白朮天麻湯、真武湯などがある。また、瘀血の代表薬である当帰芍薬散など、処方構成生薬に水滯に対する生薬が含まれる処方も多い。水滯は気血の異常に伴うことが多いからである。

冷えの概念と治療

西洋医学には冷えという疾患概念はない。様々な疾患の随伴症状として認めるだけで、重視されることはなく治療薬もない。しかし、漢方医学では冷えは重要な症状の一つであり、逆に冷えに伴う症状が認められることも多い。生活環境の変化により、冷えを訴える患者は多くなってきている。

冷えの主な要因には、職場や公共機関の冷暖房の普及により体温調節が脆弱化してきていること、日常の冷飲食(ビール、アイスクリーム、生野菜や果物)による消化管の冷え、日常の運動量の低下による血液循環の悪化、外気の冷えに対する防御不足(おしゃべりは薄着、入浴せずシャワーのみなど)があげられる。

冷えの種類として、虚弱体質や病気で体力気力を損なった人が、体温を保持できない、病邪が進入しやすくなって内寒を生じやすくなって起こる冷え、情緒失調やストレスなどにより陽

気の流れが悪くなり、体の末端まで陽気が至らないために起こる冷え、血虚体質や消耗性疾患により血の量が減少し、温める作用が減退し、寒邪が体に入りやすくなって起こる冷えなどがある。

治療法には、陽気を補う、通陽する(陽気を生じさせる)、養血散寒(血を保養して寒を散らす)、温経散寒(体を温めて寒を散らす)といった方法がある。具体的には、体を温めつつ、裏寒(身体内部の冷え)を去るような処方を用いる。附子や乾姜といった生薬を含む処方を用いたり、気血水の異常に対する処方にこれらの生薬を加味する方法もある。つまり、体を温め、血や気の流れを良くすることにより「通じざれば則ち痛む」という冷えによる痛みを取っていくのである。

痛みの治療の実際

痛みのある患者では気血水の異常や冷えが存在することが多く、大なり小なり痛みに関与している。また、多くの場合、様々な症候が混在する。その場合、主たる症候にしぼって治療する、いくつかの症候を平行して治療する、主たる症候はさておき、従たる症候から立て直すなど、症例に応じて柔軟に対応する必要がある。西洋医学では一つの病名となる症候でも漢方医学的には複雑な病態であることは多い。

例えば、漢方外来でよくみられる疾患である坐骨神経痛について考察してみる。その病因は西洋医学的には変形性腰椎疾患である腰部脊柱管狭窄症や椎間板ヘルニアなどによる坐骨神経に対する神経圧迫症状である。症状は痛みに加え違和感やしびれなどの感覚異常を伴うことが多い。午後に悪化したり、冷えて悪化し、入浴により軽減するなどの症状を呈する。漢方医学的にその病態を考えると、その局所においては圧迫によりうっ血する(瘀血)、圧迫により腫れる(水滯)、冷えると血流が悪くなって痛くなる(冷え)、長期にわたると虚血する(血虚)など、いろいろ

な病態が混在すると考えられる。坐骨神経痛に対する頻用処方には、瘀血に対して桂枝茯苓丸・疎経活血湯・通導散，水滯に対しては五苓散・苓姜朮甘湯・当帰芍薬散，血虚に対しては十全大補湯・人參養榮湯，冷えに対しては桂枝加朮附湯・当帰四逆加呉茱萸生姜湯・附子+乾姜を加味するなどがあげられる。西洋医学的診断では一病名であるものに対し，多くの処方が考えられるのである。なお，局所の治療を漢方医学では標治といい，全身的治療を本治というが，標治に対する処方と本治に対する処方が一致すれば有効である可能性が高くなる。

難治性疼痛疾患の漢方治療

西洋医学では難治性といわれる疼痛性疾患に漢方治療が有効なことがある。原因不明とされていたり，診断法はあるものの，有効な治療法が確立されていない疾患は数多くみられる。その中のいくつかについて漢方治療が有効だったとする報告を提示する。これら特異な難治性疼痛は漢方治療でも治療困難であるが，その症状だけを診るのではなく全身を診ることで治療の手がかりがみえてくることがある。

中枢痛

脳梗塞や脳内出血の後に難治性の痛みを来すことがある，これらを中枢痛という。古来，統命湯や補陽還五湯という脳血管障害後遺症に用いる処方があるが，漢方エキス剤はなく使用が難しい。気血の異常を伴うことが多いが，随伴する冷えに着目して麻黄附子細辛湯や当帰四逆加呉茱萸生姜湯¹⁾，血の異常を考慮して疎経活血湯が有効だった²⁾とする報告などがある。

舌痛症

舌痛症とは他覚的に舌に異常所見が認められず，慢性持続的な表在性，限局性の自発痛を舌に訴える疾患である。器質的変化を伴わない症例に対し，黄連湯³⁾，六君子湯⁴⁾，柴朴湯⁵⁾，加味逍遥散⁶⁾，柴胡加竜骨牡蠣湯⁷⁾などが，口腔乾燥症を伴う場合に清心蓮子飲⁸⁾麦門冬湯⁹⁾，滋陰降火湯¹⁰⁾などが有効だったとする報告がある。

繊維筋痛症

繊維筋痛症は3ヶ月以上持続する全身の筋痛，関節痛，しびれ感など筋骨格症状に睡眠障害，全身倦怠感，過敏性胃腸症状，頭痛など筋骨格外の随伴症状を伴う疾患である。西洋医学的には，消炎鎮痛薬，抗うつ薬，リハビリテーション，心理療法などが試みられるが，効果が不十分なことも多い。加味帰脾湯¹¹⁾，あるいは桂枝茯苓丸や加味逍遥散といった駆瘀血剤などが有効だった¹²⁾とする報告がある。

まとめ

痛みに対する漢方治療について概説した。疼痛性疾患は漢方外来では最も多い疾患群の一つである。治療に難渋することもあるが，患者が驚くほど短期間で軽快することもある。本稿により，痛みに対し漢方治療が有効な治療法の一つであることを理解して頂ければ幸いである。

参考図書

社団法人日本東洋医学会学術教育委員会：専門医のための漢方医学テキスト．南江堂．2009

引用文献

- 1) 平田道彦．難治性疼痛の漢方治療．
痛みと漢方 2009；19：19-24
- 2) 湯澤則子，吉山和代，河西稔．
症例報告：視床梗塞後の難治性上肢痛(視床痛)に対し，疎経活血湯が有効だった1例．
痛みと漢方 2009；19：76-79
- 3) 佃守，古川滋，松田秀樹ほか．
器質性病変のない舌痛症に対する黄連湯の臨床効果．
日本東洋医学雑誌 1994；45：401-405
- 4) 千葉雅俊，井筒崇司，越後成志ほか．
症例アブストラクト：二次的に舌炎を生じた舌痛症に六君子湯が奏功した1例．
漢方医学 2006；30：73-73
- 5) 山田剛也，瀬上夏樹，別所和久ほか．
舌痛症に対する柴朴湯の臨床評価．
歯科薬物療法 1998；17：18-22
- 6) 林寧，松村朋香，真田達夫ほか．
症例報告：加味逍遙散が有効だった舌痛症の1症例．
痛みと漢方 2006；16：58-61
- 7) 丹羽均，杉村光隆，瀧邦高．
症例アブストラクト：柴胡加竜骨牡蠣湯が著効した舌痛症の1例．
漢方医学 2005；29：233-233
- 8) 西田愼二，岸田友紀，井上隆弥ほか．
症例報告：乾燥と裂紋を伴い，手術適応とされた舌痛症に清心蓮子飲が有効であった1例．
痛みと漢方 2007；17：48-50
- 9) 井島喜弘，本間義郎，久保田英朗．
有病者の難治性口腔疾患に対する漢方治療の有用性について．
歯科医療 2007；16：85-91
- 10) 井島喜弘，本間義郎，久保田英朗．
症例報告：舌痛症に対する漢方薬の効果—滋陰降火湯が有効であった2例．
痛みと漢方 2009；19：71-74
- 11) 佐藤泰昌，成川希，田上慶子ほか．
症例報告：漢方治療により QOL の著明な改善を認めた繊維筋痛症の1例．
痛みと漢方 2007；17：60-63
- 12) 河野清秀．
繊維筋痛症は，駆瘀血剤で改善する．
痛みと漢方 2009；19：55-59

